**【Chapter４の論点】**

This chapter explores secondary education, defined here as that offered to pupils aged 11 to 16. In particular it compares the English and Finnish systems, looking at data gathered by international assessment programmes.（p.48/l1～3.）

…本章では、中等教育を探求する。ここでの中等教育とは、11歳から16歳までの生徒に提供される教育と定義する。特に、国際評価プログラムによって集められたデータを用いて、イングランドとフィンランドの制度を比較する。

Both surveys discussed in this chapter emphasize the need to take into account other factors when considering the raw data from the tests.（p.53/l.1～2）

…この章で議論された2つの調査（TIMSSとPISA）は両方とも、試験から得た原データについて考える際、他の要素を考慮する必要性を強調している。

原データ＋他の要素

国際評価プログラム

フィンランドの制度

イギリスの制度

⇒この「制度」という言葉には例で出されているイングランドとフィンランドの場合、なにが含まれるのかが班では意見が一致しなかった。そのため、他の要素としてどのようなものが考えられるかについての話し合いまで到達できなかった。そこで…

**【論点①】**

**本章における制度（system）はなにを指すのか？を議論したあとに、**

**他の要素としてはどのようなものが考えられるのかを本文中に挙げられているものを抜き出し、共有しましょう。**

As a result of globalization policymakers and educators are increasingly tempted to use:

*International comparisons to assess how well national systems of education are performing.* （p.49/l.1～2）

…グローバル化の結果、政策立案者や教育者は、国家の教育制度がどれだけよく機能しているかを評価するために、国際比較を増々利用する傾向がある。

BUT国を超えた国際評価調査の結果を比較するにあたり、様々な意見がある。

The Secretary General of the OECD（2007）asserts that by monitoring education internationally within an agreed framework, valid comparisons can take place and ambitious goals set for educators.（p.49/l.19～21）

…2007年のOECDの事務総長は、決められた枠組みにおいて国際的に教育をモニタリングすることにより、根拠の確かな比較が行われ、教育者に対しては高い目標が設定されるのだと主張している。

They（IEA） emphatically state that valid and useful comparative information on pupil achievement across different countries can be assembled simply by doing it, despite the challenges（Hegarty, 2004）（p.49/l.29～31）

…彼ら（IEA）は異なる国を越えた生徒の達成度についての確かで有効な比較に基づく情報は、その課題に関わらず、ただ比較を行うだけで集められる、と力強く述べている。

一方で…

Others point out that it is very difficult to produce meaningful comparative information in education, particularly between countries which are at different stages of development. When measuring the literacy levels, is it fair to directly compare the performance of those nations which have speakers of many different first languages with those in which there is one more tongue? How do you account for the effect of perceived national attitudes towards mathematics and science on individual performance in those subjects? （p.49/l.23～29）

…特に異なる発達段階の国同士の比較による情報を導き出すことはかなり難しいと指摘する人もいる。（たとえば、）読解力のレベルを測るとき、多くの異なる母語が存在する国と、ひとつの母語しか持たない国の成果をそのまま比べることは、公正なことだろうか？数学や理科という教科への国家的態度の、それらの教科の個人の成果への影響を、どのように説明するのだろうか？

Both surveys discussed in this chapter emphasize the need to take into account other factors when considering the raw data from the tests.（p.53/l.1～2）

…この章で議論された2つの調査（TIMSSとPISA）は両方とも、試験から得た原データについて考える際、他の要素を考慮する必要性を強調している。

**【論点②】**

**制度を対象として、国際評価調査の結果の比較をする際に、点数以外の要素を**

**考慮することがなぜ必要か？考慮しなければ、どのような不都合があるのか？**